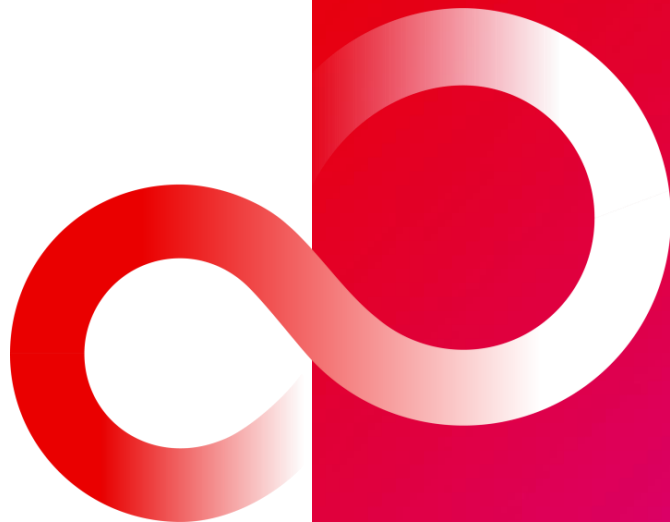


データセンターアウトソーシングサービス
FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O/ベアメタル
FUJITSU Cloud Service for SPARC

Digital enhanced EXchange(DEX) ご紹介資料

2024年3月
富士通株式会社

FUJITSU



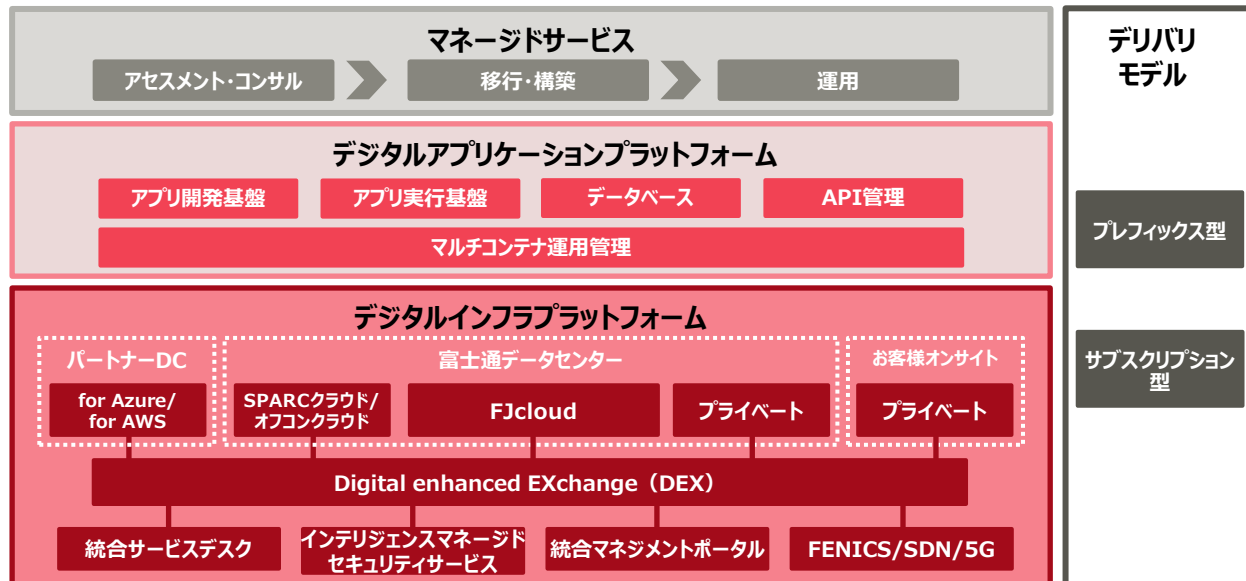
サービス概要

FUJITSU Hybrid IT Serviceについて

○ FUJITSU Hybrid IT Service

当社が長年提供してきた、クラウド、データセンター、ネットワーク、セキュリティ、システム運用保守などのインフラサービス、プロダクト、アプリケーション基盤などを新規技術の実装により強化し、新たにDC・クラウド接続基盤や統合マネジメントポータル等とともに、プレフィックスやサブスクリプションなどの形態で提供するソリューション群

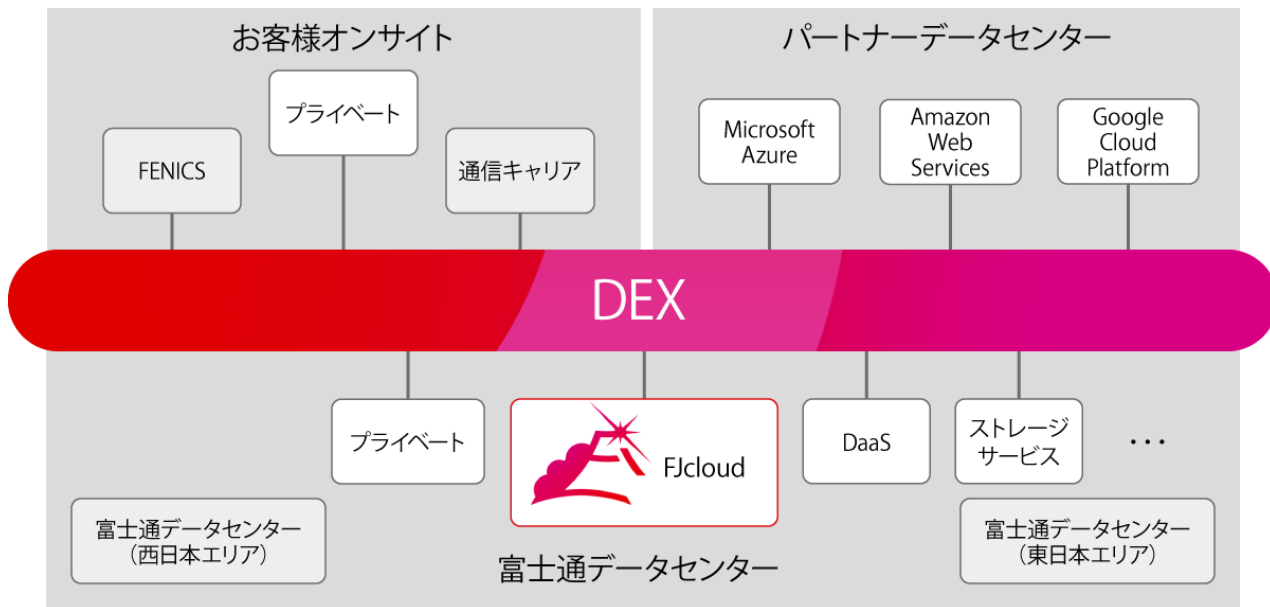
○ DEX : FUJITSU Hybrid IT Serviceのデジタルインフラプラットフォームを構成するサービスの一つ



Digital enhanced EXchange サービス概要

お客様のDX環境のスピーディーかつ最適な構築・運用を実現

当社データセンター内のお客様システムをDigital enhanced EXchangeにつなげることで、データセンター内外の様々なサービスが利用可能になります。



① データセンター内の様々なサービスが利用可能

- Digital enhanced EXchangeに接続することで富士通データセンター内にある様々なサービスが利用でき、容易にハイブリッド/マルチクラウド環境を構築することができます。
- データセンターをまたがった接続が出来るため、DRやバックアップの環境としてもご利用いただけます。

② データセンター外のお社クラウドにシームレスに接続

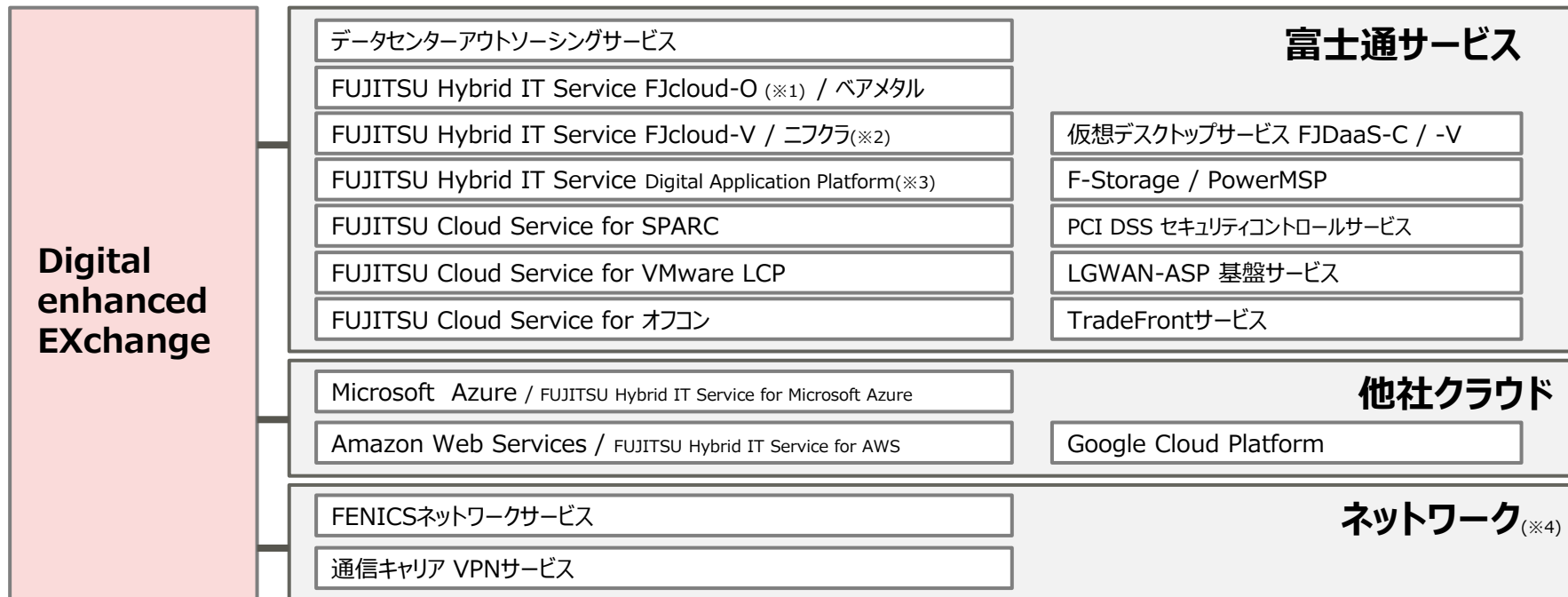
- 富士通データセンター外で提供されているお社クラウドへの接続は敷設済みのネットワークを利用します。回線手配を行うことなく、Azure、AWS、GCPなどのクラウドに接続することができます。
- 閉域ネットワークで各クラウド基盤と接続することにより、インターネット経由の接続方法と比べて高い安全性と信頼性を実現しています。

③ 各種サービスへの接続環境をワンストップで提供

- Digital enhanced EXchangeから各サービスまでのネットワークをワンストップで提供します。構築/運用などは富士通が行うため、お客様の運用負荷を軽減することができます。

Digital enhanced EXchange対応サービス

- Digital enhanced EXchangeを中心に富士通DC内外の各種サービスが接続可能です。



(※1) 対象サービスは「IaaS」、「IoT Platform」となります。

(※2) 対象サービスは「IaaS」「バックアップ/セキュリティサービス (Acronis Cyber Protect Cloud)」となります。

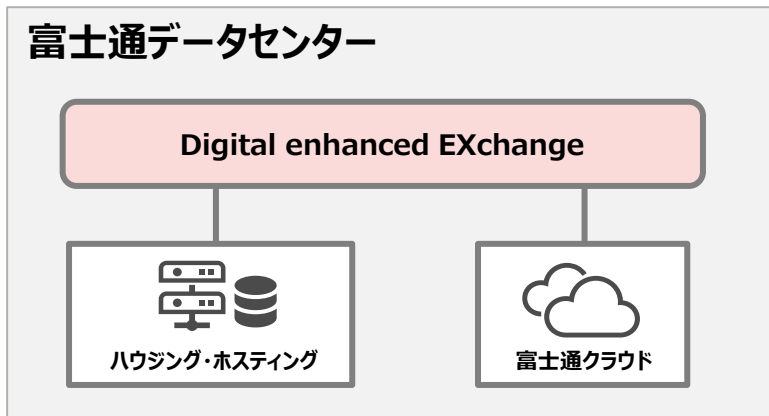
「IaaS」で接続可能なリージョンはeast-1、east-4およびwest-2となります。

(※3) 対象サービスは「API Management Service」「Container Platform powered by Red Hat OpenShift」となります。

(※4) 通信キャリアとの接続はFJcloud-O/ベアメタルおよびFJCS for SPARCの専用メニューです。

○ハウジング/ホスティング環境と富士通クラウドを構内接続

- データセンター構内で低遅延なハイブリッド接続が可能です。
- FJCS for SPARCやFJcloud-VなどのL2接続可能なクラウドの場合、移行やシステム間連携が容易に行うことができます。
- お客様センターからAzure/AWSを利用する場合と比較して安価にハイブリッド構成が実現可能です。



■ コスト比較(1Gbps帯域確保)

- ✓ お客様センターからAzureに接続：250万円/月※
- ✓ FJcloud-O/ベアメタルのクロスコネクト：6万円/月

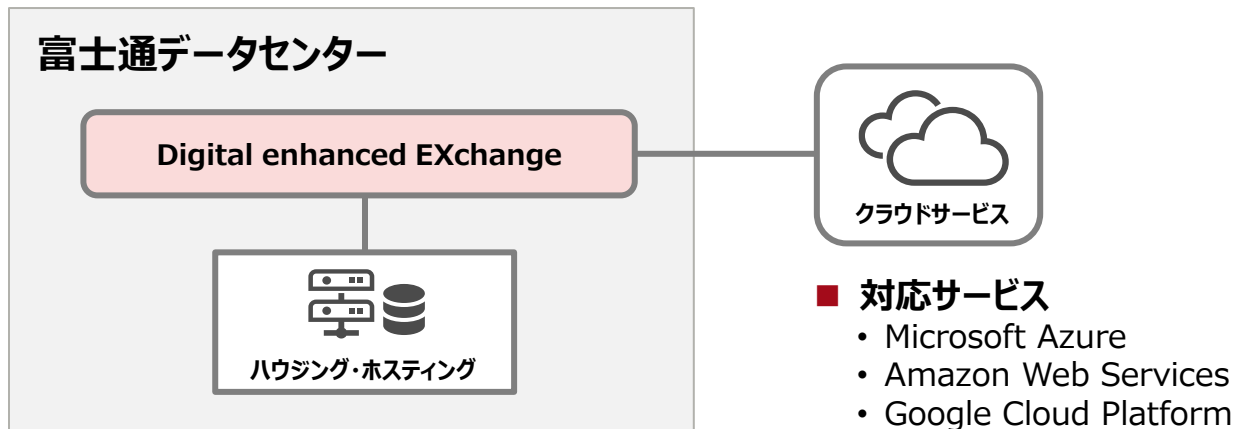
■ 対応サービス

- データセンターアウトソーシング
- FJcloud-O/ベアメタル
- FJcloud-V
- FJCS for SPARC
- FJCS for VMware LCP
- FJCS for オフコン
- 仮想デスクトップサービス FJDaaS-C / -V
- F-storage / Power-MSP など

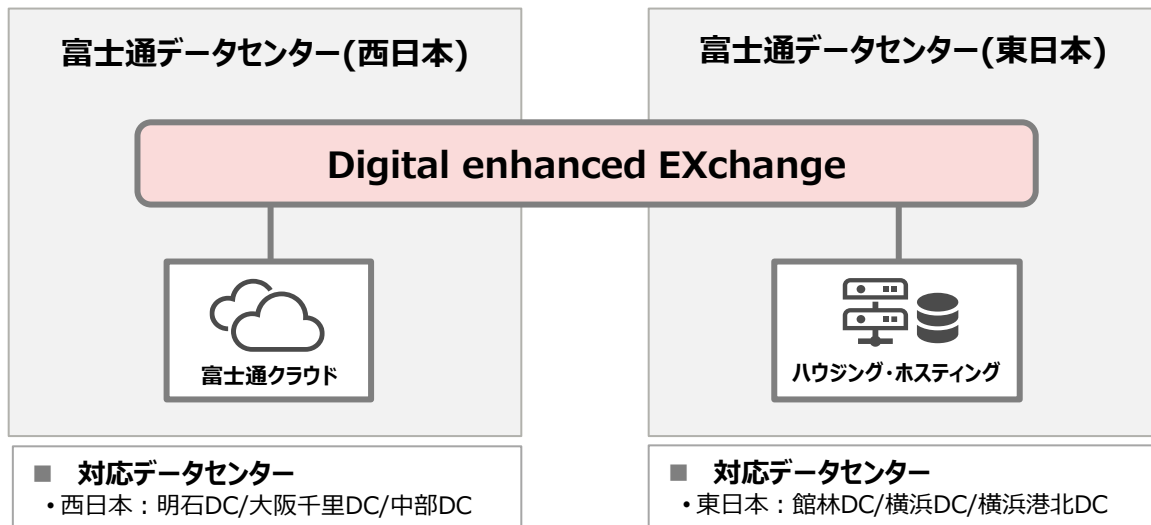
※ 通信キャリアの利用料(センター回線とクラウド接続サービス)にAzure ExpressRoute利用料を加えた金額です。

○ DC内環境から他社クラウドへのシームレスな接続を実現

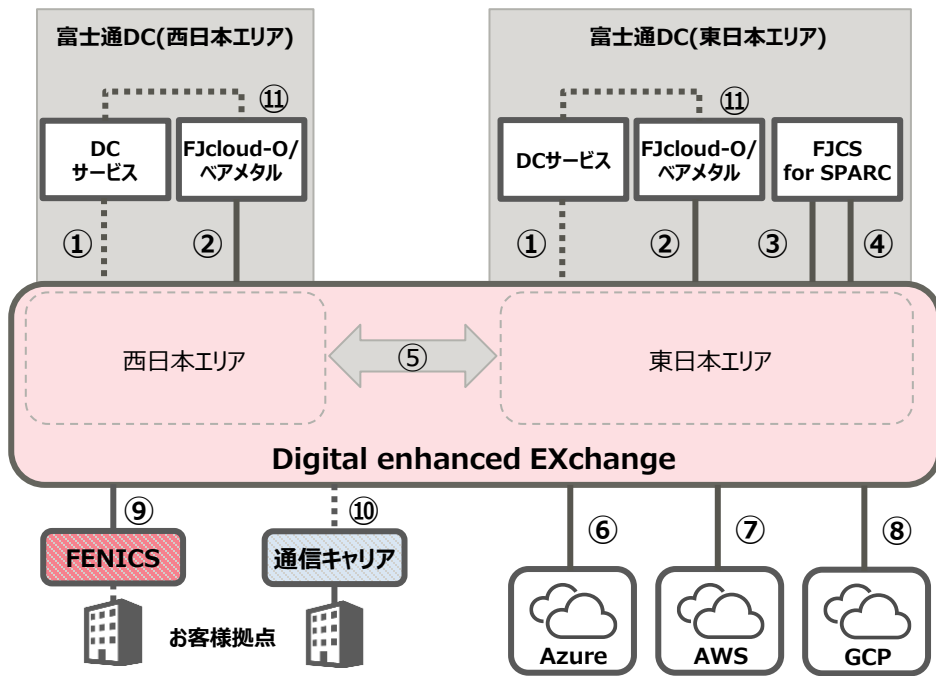
- データセンター構内ネットワークの延長で他社クラウドに接続可能です。クラウド接続用にお客様がWAN回線を手配する必要がありません。
- インターネットを経由しない、高品質で安定した接続環境を提供します。
- ネットワーク構築や運用監視をサービス提供するため、容易に他社クラウドとのハイブリッド・マルチクラウド環境を構築することが出来ます。



- **データセンター間接続でDRや遠隔バックアップなどのBCP対策を容易に実現**
 - Digital enhanced EXchangeで富士通の主要DC間が接続可能です。
 - ホスティング/ハウジングからクラウド、ストレージサービスまで豊富なサービスラインナップで様々なBCPのニーズに対応します。



Digital enhanced EXchange 提供メニュー



点線の部分はFENICS/お客様利用キャリアのアクセス回線またはDC内ケーブルを別手配して接続

【凡例】 — (実線)本サービス提供範囲
 (点線)本サービス提供範囲外

DEX提供メニュー	左記のメニューを提供するサービス
①クロスコネクトポート for 富士通データセンター・WAN帯域確保オプション (館林-横浜間)	・ データセンターアウトソーシングサービス
②クロスコネクト for FJcloud-O	・ FJcloud-O/ベアメタル
③クロスコネクト for SPARC	・ FJCS for SPARC
④クロスコネクト(L2) for SPARC	
⑤東西エリアコネクト	・ データセンターアウトソーシングサービス ・ FJcloud-O/ベアメタル
⑥クラウドコネクト for Azure ExpressRoute	・ データセンターアウトソーシングサービス ・ FJcloud-O/ベアメタル
⑦クラウドコネクト for AWS Direct Connect	
⑧クラウドコネクト for GCP Cloud Interconnect	
⑨WANコネクト for FENICS	・ データセンターアウトソーシングサービス ・ FJcloud-O/ベアメタル ・ FJCS for SPARC
⑩WANコネクト for キャリア	・ FJcloud-O/ベアメタル ・ FJCS for SPARC
⑪ダイレクトポート	・ FJcloud-O/ベアメタル

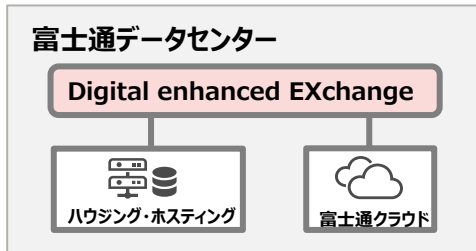
提供メニューの 詳細説明

Digital enhanced EXchangeでは富士通データセンター内の様々なサービスに加え、他社のクラウドサービスやネットワークサービスとの相互接続機能を提供します。

○ 基本機能として以下の2種類の接続機能を提供します。

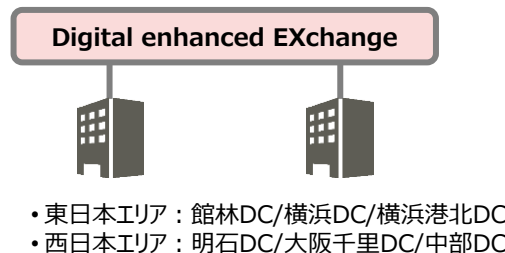
○ 基本機能① 富士通DC内の相互接続機能

- データセンター内の各種サービス間を接続します。



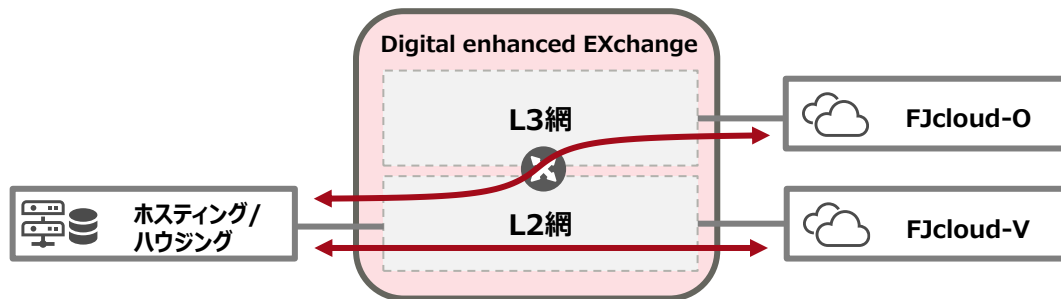
○ 基本機能② 東西各エリア内のDC間接続機能

- 東日本エリア、西日本エリアのそれぞれのエリア内のデータセンター間を接続します。
(館林DC～横浜DCや明石DC～大阪千里DCなど)
- データセンターを跨いでサービス間を接続することが出来ます。



○ Digital enhanced EXchange対応サービスと接続レイヤ

- Digital enhanced EXchangeはL3網とL2網で構成されており、各サービスはL2またはL3のいずれかのレイヤで網に接続されます。
- L2網に接続されたサービス間を接続する場合、複数サービスで同一ネットワークセグメントを使った構成にすることも可能です。※
- L2網とL3網のゲートウェイで接続されており、相互通信が可能です。



L2網に接続されているサービス		L3網に接続されているサービス
- データセンターアウトソーシングサービス - FJcloud-V/ニフクラ - FJCS for SPARC - FJCS for VMware LCP - FJCS for オフコン - 仮想デスクトップサービス FJDaaS-C / -V		- F-Storage - Power-MSP - LGWAN-ASP 基盤サービス - TradeFrontサービス - PCI DSS セキュリティコントロールサービス

○ Digital enhanced EXchange 網仕様

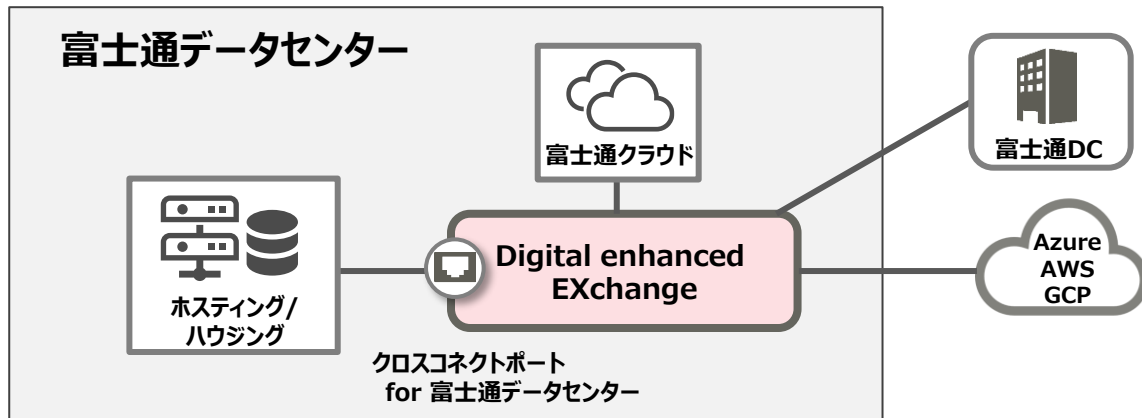
項目		仕様	備考
網内帯域		- DC内通信 - 1Gbps帯域確保 - エリア内のDC間通信 ※1 - 1Gbpsベストエフォート	- エンド～エンドの通信帯域は選択する提供メニューの帯域により決まります。 ※2 - 館林DC～横浜DC間はWAN帯域確保オプションで以下メニューが選択できます。 – 100Mbps～500Mbps帯域確保 – 1Gbps帯域確保
冗長構成		設備および回線冗長	
接続レイヤ		L2/L3	
L2網	透過可能なプロトコル	- L2 : ARP - L3 : IPv4	- SNA、FNA、HNAなどのTCP/IP以外の独自プロトコルは使用できません。 - STP、LLDP、LACP、CDP、VTPなどのプロトコルは透過しません。
	制限事項	ブロードキャスト、マルチキャストやUnknownユニキャストのフレームは一定レートで破棄します。	
L3網	透過可能なプロトコル	IPv4	
	MTU	1,500Bytes	
	経路数上限	199	L3網がBGPで受信出来る経路数の上限

※1 「エリア内のDC間通信」とは館林DC～横浜DCや明石DC～大阪千里DC間などのエリアを跨がないDC間通信を指します。

※2 例：クラウドコネク ト for Azure ExpressRouteの100Mbps帯域確保を利用している場合、Azureとの通信帯域の上限は100Mbpsになります。

クロスコネクトポート for 富士通データセンターはデータセンター利用者のハウジング/ホスティング環境をDigital enhanced EXchangeに接続するための物理ポートを提供します。

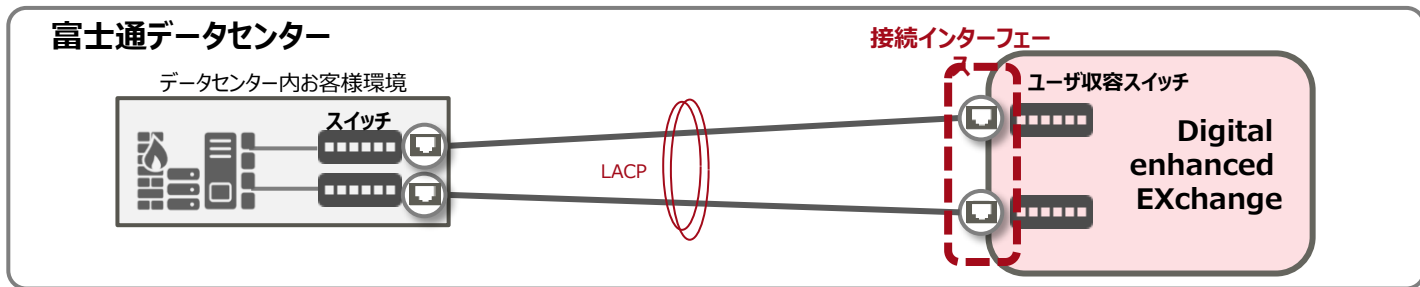
- Digital enhanced EXchangeに接続することにより、富士通データセンター内にあるクラウドサービスやAzure/AWSなどのサードパーティーのサービスなどにシームレスに接続を行うことができます。
- 異なる立地の富士通データセンターへの接続も可能になります。



○ ユーザ収容スイッチ インターフェイス仕様

- 「クロスコネクトポート for 富士通データセンター」で提供するユーザ収容スイッチのインターフェースの仕様は以下の通りです。

項目	仕様
インタフェース規格	1000BASE-T
ケーブル種別（コネクタ形状）	Cat5e UTPケーブル（RJ-45）
提供ポート数	2ポート
冗長化方式	動的リンクアグリゲーション(LACP)
VLAN仕様	IEEE802.1Q タグVLAN(トランクポート/タグVLAN) (最大50VLANまで利用可能)



- ・本メニューの利用にあたってはお客様環境内のスイッチとユーザ収容スイッチを接続するためのケーブル工事が必要となります。
- ・クロスコネクトポートの複数利用をご希望の場合、提供可否を担当営業までお問い合わせください。

○ WAN帯域確保オプション（館林ー横浜間） サービス仕様

項目	仕様
オプション利用の前提条件	東日本エリア内で「クロスコネクトポート for 富士通データセンター」を利用していること
提供範囲	館林DCー横浜DC間
提供帯域	・100Mbps～500Mbps帯域確保 ※100Mbps単位で帯域が選択可能です ・1Gbps帯域確保
接続レイヤ	L2/L3
その他	WAN帯域確保オプションは論理ネットワーク（VLAN）単位での提供です。ひとつのクロスコネクトポートで利用している複数のVLANそれぞれに対して契約することが可能です。

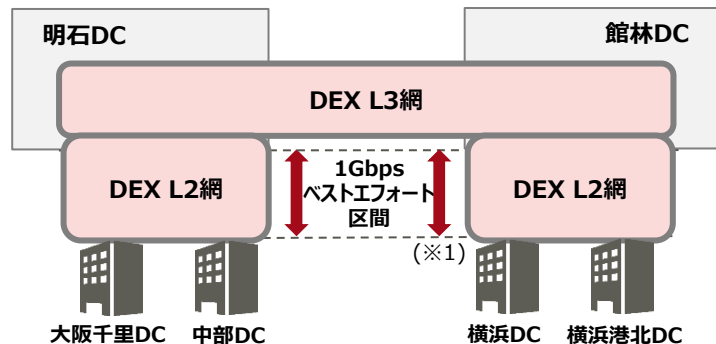
○ 通信帯域に関する留意事項

- Digital enhanced EXchangeのデータセンター間ネットワークには1Gbpsベストエフォートの区間があります。
- 利用DCおよび通信先や利用メニューによって通信帯域の上限が1Gbpsベストエフォートになる場合があります。

■ 通信帯域の上限が1Gbpsベストエフォートになる利用形態の例

- ① 東西各エリア内のデータセンター間通信
東日本エリア：館林DC/横浜DC/横浜港北DCのデータセンター間通信(※1)
西日本エリア：明石DC/大阪千里DC/中部DCのデータセンター間通信
- ② FJcloud-O/FJCS for SPARCとの通信
対象：横浜DC(※1)/横浜港北DC/大阪千里DC/中部DC
- ③ 東西エリア間通信を利用する場合
対象：横浜DC(※1)/横浜港北DC/大阪千里DC/中部DC
- ④ クラウドコネクトを利用する場合
対象：横浜港北DC/大阪千里DC/中部DC

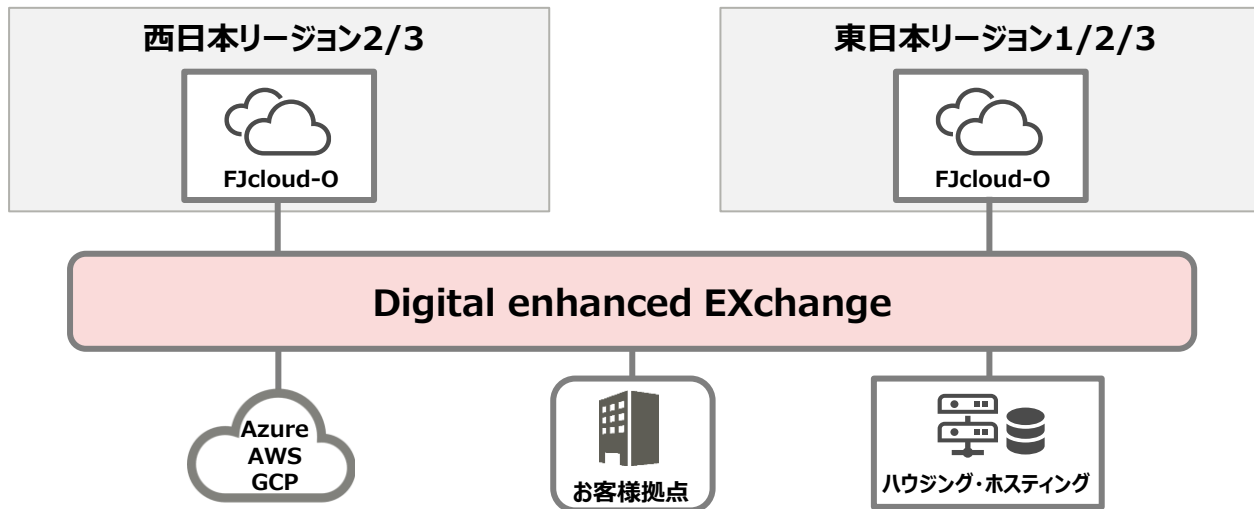
(※1)館林DC～横浜DC間は、「クロスコネクトポート for 富士通データセンター WAN帯域確保オプション(館林～横浜間)」をご利用頂くことが可能です。



クロスコネクト for FJcloud-O 機能概要

クロスコネクト for FJcloud-OはFJcloud-O利用者のIaaS環境をDigital enhanced EXchangeに接続するための機能を提供します。

- Digital enhanced EXchangeに接続することにより、富士通データセンター内のお客様環境やオンプレミス環境との接続をシームレスに接続を行うことができます。
- 東西エリアコネクトを利用することによりDRを意識した構成が可能となります。



クロスコネクト for FJcloud-O 機能概要

○ クロスコネクト for FJcloud-O サービス仕様

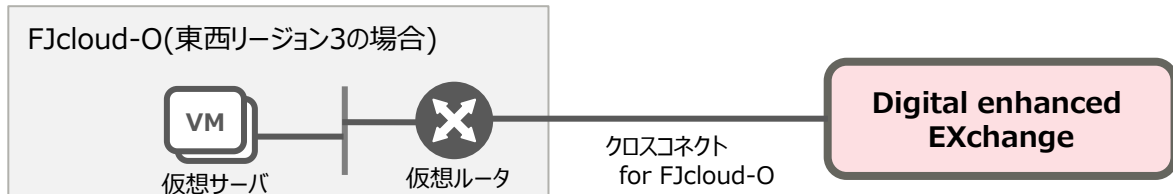
- FJcloud-Oのお客様環境とDigital enhanced EXchangeを以下の仕様で接続いたします。

項目	仕様
提供帯域※	• 100Mbpsベストエフォート • 100Mbps帯域確保 • 1Gbpsベストエフォート • 1Gbps帯域確保
冗長構成	設備および回線冗長
接続レイヤ	L3
利用可能プロトコル	IPv4

※ クロスコネクトの契約帯域にかかわらず、FJcloud-O環境内の通信はベストエフォートとなります。

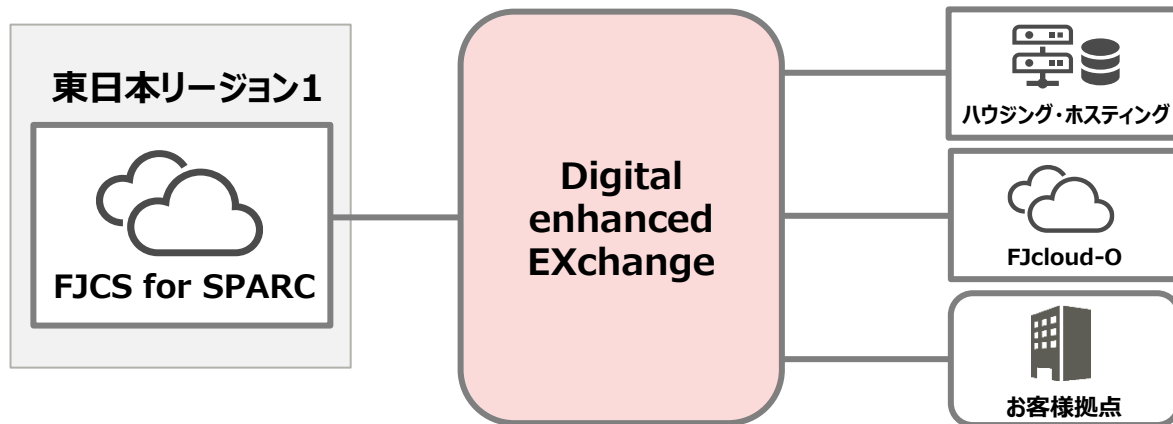
○ 接続イメージ

- FJcloud-Oの仮想ルータ(東日本リージョン3,西日本リージョン3)及びネットワークコネクタエンドポイント(東日本リージョン1/2,西日本リージョン2)を経由した接続となります。



クロスコネクト for SPARCおよびクロスコネクト(L2) for SPARCはFJCS for SPARCの利用者環境をDigital enhanced EXchangeに接続するための機能を提供します。

- Digital enhanced EXchangeに接続することにより、富士通データセンター内のお客様環境やオンプレミス環境との接続をシームレスに接続を行うことができます。
- クロスコネクト(L2)ではFJCS for SPARC環境と東日本エリアのホスティング/ハウジング環境を同一L2セグメントで接続することができます。



クロスコネクト/クロスコネクト(L2) for SPARC 機能概要

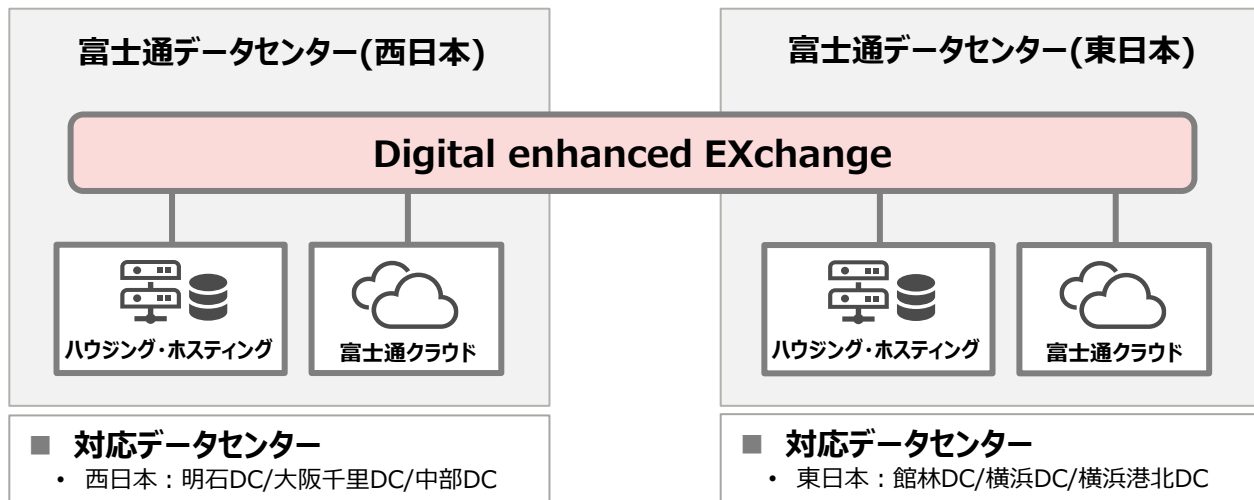
○ クロスコネクト/クロスコネクト(L2) for SPARC サービス仕様

- FJCS for SPARCのお客様環境とDigital enhanced EXchangeを以下の仕様で接続いたします。

項目	サービス仕様	
	クロスコネクト	クロスコネクト(L2)
提供帯域※	• 100Mbpsベストエフォート • 100Mbps帯域確保 • 1Gbpsベストエフォート • 1Gbps帯域確保	• 1Gbpsベストエフォート
冗長構成	設備および回線冗長	設備および回線冗長
接続レイヤ	L3	L2
利用可能プロトコル	IPv4	IPv4

東西エリアコネク トはDigital enhanced EXchangeの東日本エリアと西日本エリアを接続する機能を提供します。

- 東日本と西日本のデータセンターを接続し、各センターで提供されている様々なサービスを利用することによりDRや遠隔地バックアップなどのBCP対策を容易に行うことができます。



○ 東西エリアコネク ト サービス仕様

項目	仕様
提供帯域	• 10Mbpsベストエフォート • 100Mbpsベストエフォート • 100Mbps帯域確保 • 1Gbpsベストエフォート • 1Gbps帯域確保
冗長構成	設備および回線冗長
接続レイヤ	L3

○ クラウドコネク サービス仕様

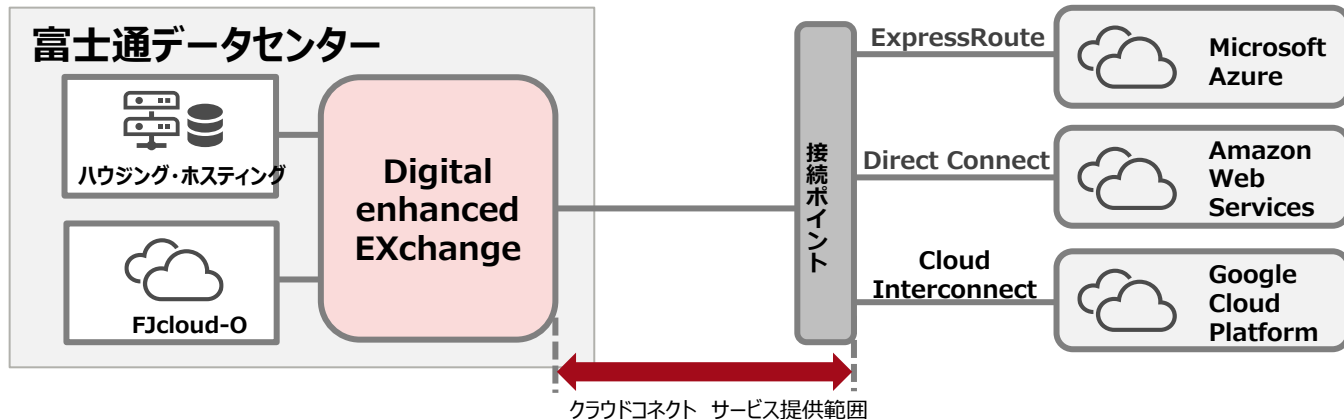
項目	仕様		
	Azure	AWS	GCP
接続可能なクラウドサービス	Privateサービス (Compute/VNet)	Privateサービス (EC2/VPC)	Privateサービス (GCE/VPCネットワーク)
接続方式	ExpressRoute • ExpressRoute Directには対応していません。 • Private Peeringのみに対応しています。 Microsoft Peeringには対応していません。	Direct Connect • ホスト型仮想インターフェイス(ホスト型VIF)を使った接続になります。 • Direct Connect GatewayおよびTransit Gatewayに対応しています。	Cloud Interconnect • Partner Interconnectのみに対応しています。Dedicated Interconnectには対応していません。
提供帯域	• 100Mbps帯域確保～500Mbps帯域確保(100Mbps単位で帯域を選択可能) • 1Gbps帯域確保 ※AWSでTransit Gatewayを利用する場合、利用可能な帯域は1Gbps帯域確保のみとなります。		
冗長構成	設備および回線冗長		
接続レイヤ	L3		
Azure/AWS/GCPとの 接続ポイント	東京/大阪 東京の接続ポイントは東日本エリアのデータセンターおよびFJcloud-O 東日本リージョン専用です。 大阪の接続ポイントは西日本エリアのデータセンターおよびFJcloud-O 西日本リージョン専用です。		

■ FJcloud-O利用時の留意事項

- クラウドコネク各種メニューは「クロスコネク for FJcloud-O」と「クラウドコネク」以外のメニューと組み合わせて利用することは出来ません。
 - ✓ 提供出来るメニューの組み合わせ例：クロスコネク for FJcloud-O + クラウドコネク for Azure ExpressRoute + クラウドコネク for AWS Direct Connect
 - ✓ 提供出来ないメニューの組み合わせ例：クロスコネク for FJcloud-O + クラウドコネク for Azure ExpressRoute + 東西エリアコネク
- 本メニューを東日本リージョン内または西日本リージョン内の複数リージョンでご利用することは出来ません。

クラウドコネクは、富士通データセンター内にあるお客様環境と「Microsoft Azure」「Amazon Web Services」「Google Cloud Platform」との接続機能を提供します。

- データセンター構内からシームレスにAzure/AWS/GCPへ接続可能です。
- インターネットを経由しないセキュアで信頼性の高い接続環境を提供します。
- 接続環境の構築から運用まで富士通がワンストップで提供します。



○ 留意事項

○ サービス提供範囲

- 本メニューの提供範囲は富士通データセンターからクラウドサービスの接続ポイントまでとなります。
- 各クラウドサービスの契約やExpressRoute/Direct Connect/Cloud Interconnectのお申込みはお客様にて実施していただく必要があります。
- ExpressRoute/Direct Connect /Cloud Interconnectの利用にあたっては、本メニューの利用料金以外に、各クラウドサービス側でExpressRoute/Direct Connect /Cloud Interconnectの利用料金やデータ転送に関わる料金が別途発生します。クラウドサービス側の料金は各クラウドサービス事業者からお客様へ直接請求されます。

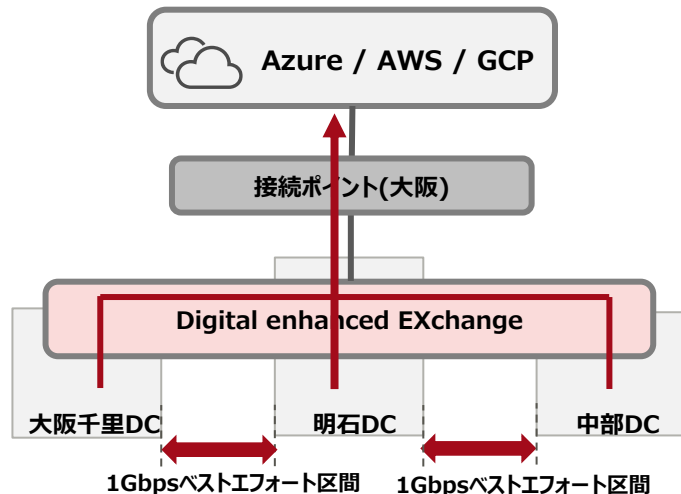
○ 接続可能なサービス

- 本メニューは以下のようなPublicサービス(Public IPを使ってアクセスするサービス)には対応していません。
 - ✓ Azure : Office 365、Dynamics 365、Windows Virtual Desktop(WVD)、Azure AD、Azure Site Recoveryなど
 - ✓ AWS : S3、WorkSpaces、DynamoDBなど
 - ✓ GCP : G suiteなど
- 富士通データセンター内のハウジング/ホスティング環境やFJcloud-OからDigital enhanced EXchangeを経由して、上記のようなサービスと通信することは出来ません。
 - ✓ インターネット経由のPublicサービスへのアクセスや各クラウド内の環境からのPublicサービスへのアクセスは通信パケットがDigital enhanced EXchangeを経由しないため、通常通りご利用頂けます。
例：インターネット経由でO365を利用する、EC2インスタンスからS3を利用する等

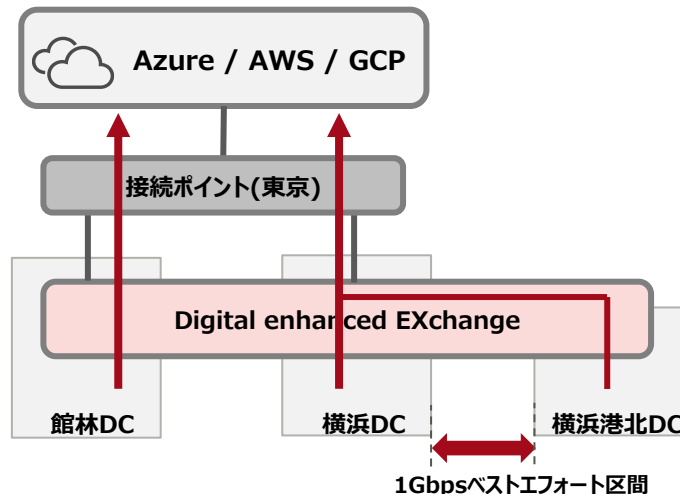
○ データセンター利用者向け留意事項

- 横浜港北DCから本サービスを利用する場合、横浜DCを経由してAzure/AWS/GCPと通信を行います。横浜港北DC～横浜DC間の帯域は1Gベストエフォートとなるため、クラウドコネクで1Gbps帯域確保を選択していた場合でもエンド～エンドの通信帯域の上限は1Gbpsベストエフォートになります。
- 大阪千里DCおよび中部DCから本サービスを利用する場合、明石DCを経由してAzure/AWS/GCPと通信を行います。大阪千里DC～明石DC間および中部DC～明石DC間の帯域は1Gベストエフォートとなるため、クラウドコネクで1Gbps帯域確保を選択していた場合でもエンド～エンドの通信帯域の上限は1Gbpsベストエフォートになります。

● 西日本エリア各データセンターから各種クラウドへの通信経路

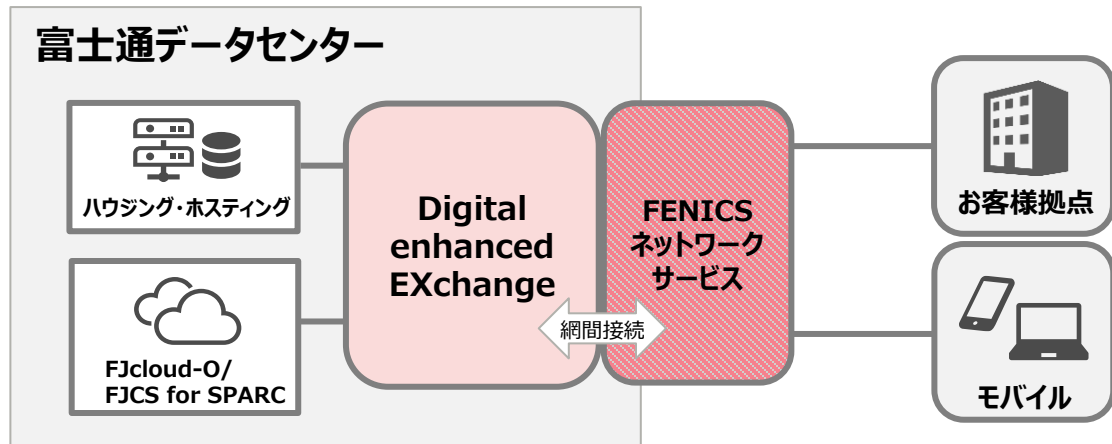


● 東日本エリア各データセンターから各種クラウドへの通信経路



WANコネクト for FENICSは富士通データセンター内にあるお客様環境と当社FENICSネットワークサービスとの接続機能を提供します。

- FENICSとDigital enhanced EXchangeは網間接続されているため、当社データセンターへの回線敷設を行うことなく、FENICSネットワークサービスからデータセンターアウトソーシング環境やFJcloud-O、FJCS for SPARCに接続することが出来ます。



WANコネクト for FENICS 機能概要

○ WANコネクト for FENICS サービス仕様

項目	仕様	備考
提供帯域	■ データセンターアウトソーシングサービス • 100Mbpsベストエフォート ■ FJcloud-OおよびFJCS for SPARC • 100Mbpsベストエフォート • 100Mbps帯域確保 • 1Gbps帯域確保	1Gbps帯域確保は接続先のFENICSサービスがビジネスマルチレイヤーコネクト(L3)の場合にのみ利用可能です。
冗長構成	設備冗長	1Gbps帯域確保の場合、シングル構成での接続になります。
接続レイヤ	L3	
提供エリア/リージョン	■ データセンターアウトソーシングサービス • 東日本エリアのデータセンター • 西日本エリアのデータセンター ■ FJcloud-O • 東日本リージョン • 西日本リージョン ■ FJCS for SPARC • 東日本リージョン	
経路数に関する注意事項	本メニューを利用する場合、FENICS以外のサービスからDEXが受信できる経路数の上限が40経路になります。FENICSのビジネスマルチレイヤーコネクト(L3)を利用中かつ本サービスの1Gbps帯域確保メニューを利用する場合、上限値が10経路になります。	

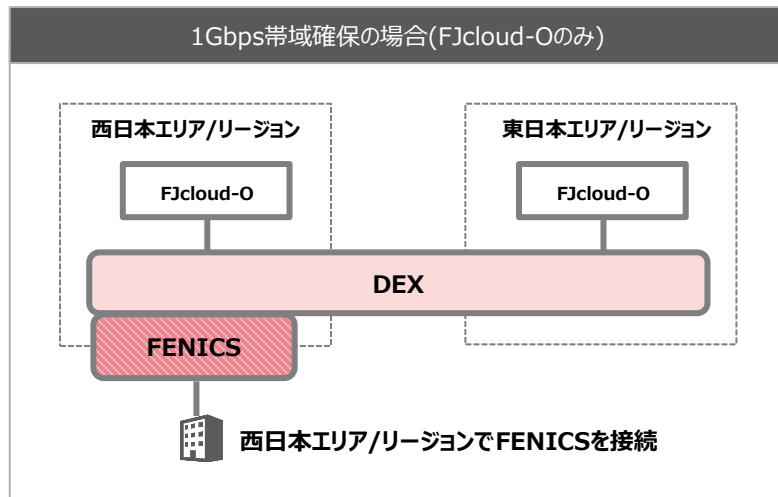
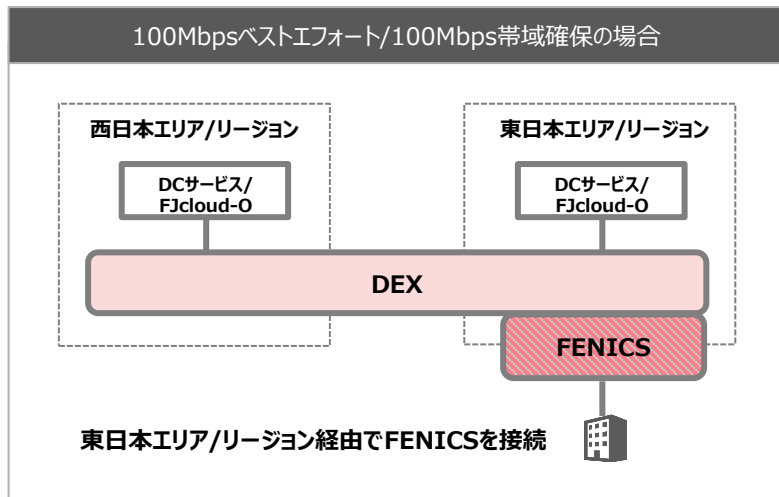
■ データセンターアウトソーシングサービス利用時の留意事項

- 西日本エリアのデータセンターから本メニューを利用する場合の除き、WANコネクト for FENICSは「クロスコネクトポート for 富士通データセンター」と「東西エリアコネクト 100Mbpsベストエフォート」以外のメニューと組み合わせて利用することは出来ません。

WANコネクト for FENICS 機能概要

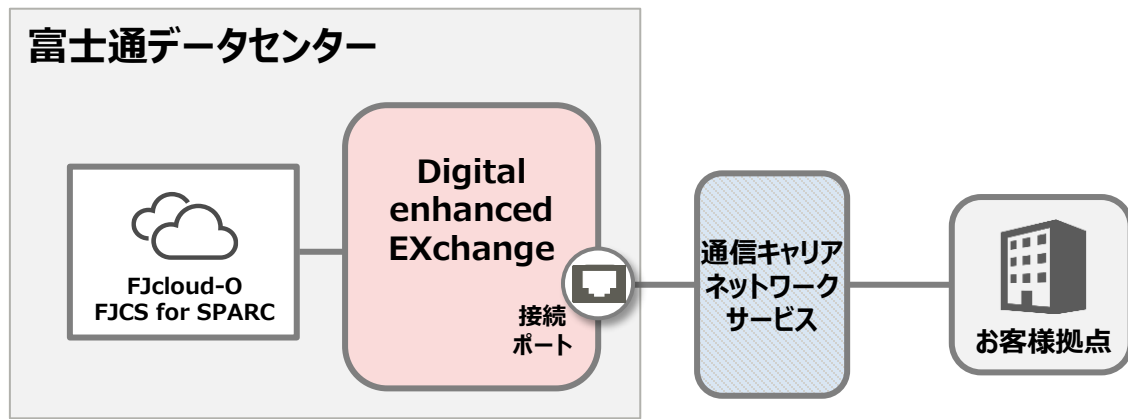
○ 西日本エリアDCおよびFJcloud-O 西日本リージョン利用時の留意事項

- 西日本エリアDCおよびFJcloud-Oの西日本リージョンでWANコネクト for FENICSを利用する場合、利用帯域によりFENICSとの接続箇所が異なります。



WANコネクト for キャリアはお客様が利用中の通信キャリアのネットワークサービスとFJcloud-OおよびFJCS for SPARCとの接続機能を提供します。

- ご利用中のWANサービスをリプレイスすること無く、そのままDEXに接続することができます。
- 接続に必要な設備はDEXが提供するため、回線の手配だけで簡単に接続することができます。



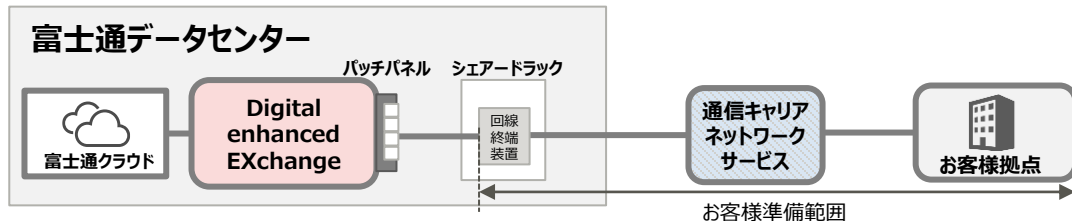
WANコネクト for キャリア 機能概要

○ WANコネクト for キャリア サービス仕様

項目	仕様	備考
提供ポート	100Mbpsポート 1Gbpsポート	シングル回線のみ収容可能です。
接続レイヤ	L3	
接続可能なオンプレミスの経路数	- L2網サービスを接続する場合：50 - L3網サービスを接続する場合：199	
対応キャリア	- NTTコミュニケーションズ - KDDI - ソフトバンク など	当社シェアドラックに設置できる通信キャリアの装置は1台のみです。そのため、光ネクストなどのブロードバンド系回線はご利用頂けません。

○ 詳細な接続構成

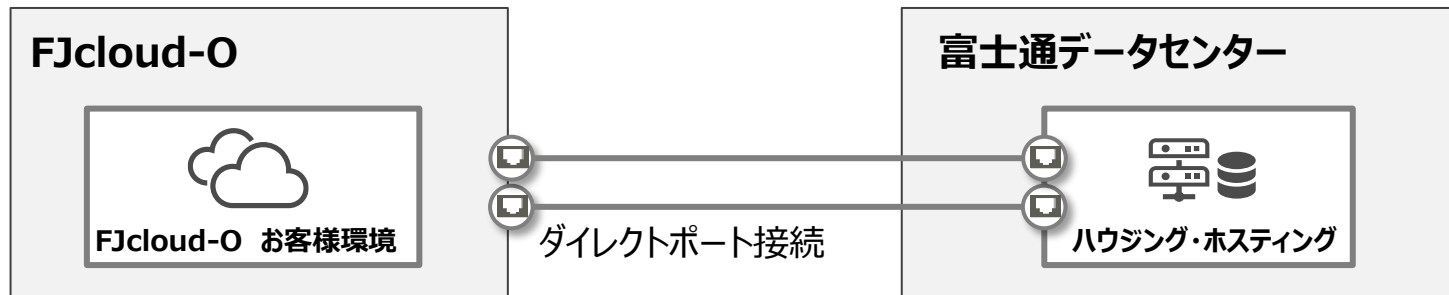
- ご利用にあたって、お客様手配で当社データセンターまでの回線敷設が必要となります。
- お客様手配回線の回線終端装置をシェアドラックに設置し、パッチパネル経由でDEXに接続します。



ダイレクトポート接続(L2/L3) 機能概要

ダイレクトポート接続はFUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-O利用者のIaaS環境と富士通DC内のお客様環境とを直接接続するための物理ポートを提供いたします。

- インターネットやDEXを利用せず、FJcloud-Oと富士通データセンター内のお客様環境をダイレクトに接続することができます。
- 物理ポートを(冗長構成/2ポート)を提供し、富士通データセンター内のお客様環境を広帯域で接続可能となります。
- L2/L3レイヤで接続が可能となります。 ※L2接続は東日本リージョン3/西日本リージョン3のみの提供



ダイレクトポート接続(L2/L3) 機能概要

○ ダイレクトポート接続 仕様

- FJcloud-Oのお客様環境とデータセンター内の環境を以下の仕様で接続いたします。

項目	ダイレクトポート接続(L2)	ダイレクトポート接続(L3)
提供リージョン	• 東日本リージョン3 • 西日本リージョン3	• 西日本リージョン2/3 • 東日本リージョン1/2/3
提供ポート	• 1Gbpsポート • 10Gbpsポート	• 1Gbpsポート • 10Gbpsポート
冗長構成	LACPを利用した動的リンクアグリゲーション	冗長構成に対応した2ポートを提供
接続レイヤ	L2	L3
インターフェース規格	• 1000BASE-LX(1Gbpsポート) • 10GBASE-LR(10Gbpsポート)	• 1000BASE-LX(1Gbpsポート) • 10GBASE-LR(10Gbpsポート)
ケーブル種別	2芯SMF (シングルモード光ファイバ)	2芯SMF (シングルモード光ファイバ)

○ その他注意事項

- 富士通データセンター内のお客様環境に、上記仕様を満たすネットワーク機器をご用意いただく必要があります。
- 富士通データセンター内のお客様環境と、FJcloud-Oで用意する物理ポートまでのケーブル工事はお客様側で手配下さい。

その他

○ 納期：最短納期10営業日(一部除外)

- 不備のない申請書を受付けてから10営業日が標準納期です。
- 一部のメニューに関しては、提供まで標準納期以上の期間が必要となる場合があります。

[15営業日]WANコネクト for FENICSで下記のFENICSサービスと接続する場合、納期は15営業日です。

・ビジネスマルチレイヤーコネクト (タイプWVS) ・ビジネスマルチレイヤーコネクト (タイプUNO) ・ビジネスマルチレイヤーコネクト (タイプSVPN) ・ビジネスマルチレイヤーコネクト (タイプKO)
・ビジネスVPN ・ビジネスVPNプラス ・ビジネスVPNアドバンス ・ユニバーサルコネクト ・ユニバーサルコネクトアドバンス ・M2Mサービス
・ビジネスIP※ ・ビジネスEthernet※ ・ビジネスWVS L2モード※ ・ビジネスWVS L3モード※

※既にFENICSサービスをご利用しているお客様のみWANコネクト for FENICSの契約が可能です。

[4ヶ月] WANコネクト for FENICSの1Gbps帯域確保メニューを利用する場合、納期は4ヶ月です。

○ 契約期間

- WANコネクト for FENICSの1Gbps帯域確保メニューの**最低利用期間は1年**です。
 - 期間満了の20営業日前までに解約申請がない場合、最低利用期間はさらに1年間自動的に延長されます。(以後も同様)
- 上記以外の全てのメニューの最低契約期間はサービス開始後1ヶ月です。
 - 開始1ヶ月未満の解約の際も1ヶ月分のご利用料金が発生します。

○ 解約：最短10営業日(一部除外)

- 解約日の10営業日前までに解約申請書の提出が必要です。
- 指定された解約希望日以降、数日以内に切断されます。解約日当日の取り下げは出来ません。
- WANコネクト for FENICSの1Gbps帯域確保メニューは、解約日の**20営業日前**までに解約申請書の提出が必要です。

メニューの選択方法例

○ ホスティング/ハウジング環境、FJcloud-O、FJCS for SPARC間の接続

- 各サービスのDigital enhanced EXchangeメニューに含まれる「クロスコネクトポート」「クロスコネクト」「クロスコネクト(L2)」を契約します。

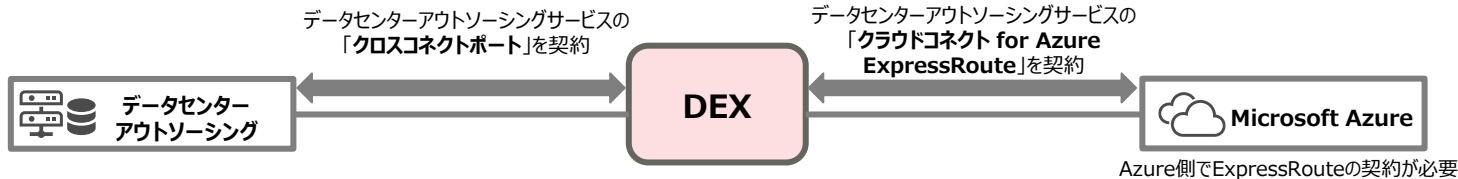
● ホスティング/ハウジング環境とFJcloud-Oを接続する場合



○ 他社クラウド、ネットワークサービスとの接続

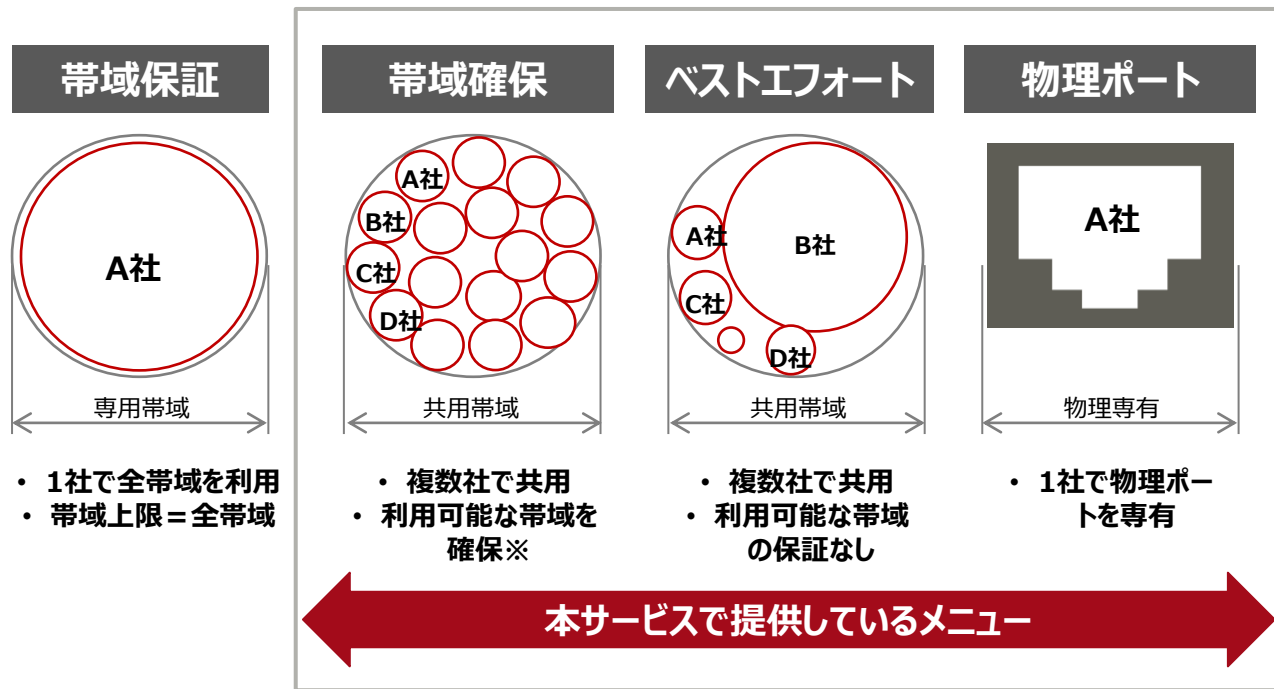
- ホスティング/ハウジング環境、FJcloud-O、FJCS for SPARCとAzure/AWSやFENICS、キャリアサービスを接続するには、各サービスの「クロスコネクトポート」「クロスコネクト」に加え、接続先のサービスに対応したメニューを契約する必要があります。

● ホスティング/ハウジング環境とAzureを接続する場合



(参考)提供帯域の種類について

○4種類のネットワーク提供形態



※契約帯域に応じた帯域を確保しておりますが、保証はしていません。

Thank you

